

2018年12月16日(日)／説教者：國分美生

説教：「すべての人を救う神の愛」

聖書：ヨハネによる福音書3：16～21

「神はその一人子を賜ったほどにこの世を愛してくださった。それは御子を信じる者が一人も滅びないで永遠の命を得るためである。」

イエスのこの言葉はユダヤ人の教師・ニコデモとの問答の中で描かれています。人は新しく生まれ直すことができない、と主張するニコデモに対しイエス、人は聖霊によって新たに生まれ、新しい人となるのだと説きます。聖霊の力に導かれて「新しい人として生きる」とこと、「永遠の命を得る」とこと、「神の救いに生きる」とことは同等なのです。「神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるため」(7 節)です。では、信じない者が「滅びる」とか「裁かれる」とはどういうことを言うのでしょうか。

「裁き」と聞けば、犯した罪にふさわしい懲らしめを与えられる、というイメージが浮かぶかもしれませんが、聖書における神の裁きはそうではありません。

「光が世に来たのに、人々はその行いが悪いので、光よりも闇の方を好んだ。それが、もう裁きになっている」(19 節)とあるように、その裁きの実体は、イエス・キリストがこの地上に来られることによって、人々が信じる者と信じない者へと区別されること、です。神様は直接的に人間に罰をお与えになる方ではありません。ですがわたしたちがキリストを信じないことで神・隣人との関係を絶たれ、正常な関係の中で生きられなくなってしまうと…そのことそのものが神に背いた罪のとげとして、私たち自身に突き刺さってきます。神と隣人と断絶したまま生きること。それが聖書のいう「罪」です。

ですが神はそのように、私たちが神と、隣人と断絶して切り離されて生きていくのを許してはくださらない。だからこそ救うためにイエスさまを地上に送ってくださった。キリストを信じる、ということは「信じています」と口で言うだけでなく、キリストにならって具体的に行動して生きるということです。私たちの、神と隣人との関係が正常に回復され、救いと平和の内に生きていけるように、神様はイエスさまをわたしたちにくださいました。そんな大切な記念すべき日を覚えつつ、今日なすべきことを祈り求めつつ、アドベントを過ごしていきましょう。(國分美生)